

## 2013 年度前期授業評価アンケート集計結果に対するコメント

—文芸学部—

文芸学部長 戸部 順一

今年度前期における授業評価アンケートの対象となった文芸学部開設科目は173科目。そのうち163科目（全体の94パーセント）から回答を得た。この数値は昨年度とほぼ同じであり（2012年度【前期】の回答率は92パーセント）、高回答率が2年続いたことは、授業評価アンケートの重要性に対する認識が学生、教員の双方に定着したことの結果と理解される。さて、個々の設問項目の数値には、受講生の授業への関心度、学ぶ意欲、また、そういった受講生の「やる気」を喚起しようという教員側の授業展開への工夫等々が反映されている。一昨年度、昨年度との比較からは、「数値」がよい方へと向かっているのが指摘できる。教員の授業改善に対する努力と、それに応えようとする受講生の授業取り組みとの相乗的効果がプラスのスパイラルを形成しつつある、と言ってよいだろう。設問12「総合的にこの授業を評価できる」の平均値が4.39であったのは、文芸学部の提供する授業科目が大半の学生にとって歓迎されているのを示すが、一方で、設問6「この授業のレベルはあなたにとって適切であったか」の平均値は3.96と唯一3点台の評価になっている。「受講生の慣れ」ということもあるのだろうか、昨年度も設問6の平均値は3点台であったものの（正確には3.91）、後期になると4.13に改善された。同じ数値の推移を期待したい。

ところで設問2「授業中意欲的に取り組んだ」の平均値は4.23と高い値を得たが（ちなみに2012年度【前期】では4.18であった）、設問14「予習または復習をよくした」の平均値が3.52であるのはいささか残念な気がする—とはいえ設問14の平均値も一昨年度は3.44、昨年度が3.48であり、着実に予習・復習意欲は高まってはいる。夏季休暇中に図書館内および文芸学部共用研究室にはラーニングコモンズのスペースが設けられた。この施設を大いに活用し設問14の平均値を上げてもらいたい。設問9にあるように、教員は受講生の授業参加を積極的に促そうとしている—その平均値が4.12であるのは、受講生もそのことをよく理解しているということだろう。積極的授業参加の掛け声に応えるためには、教室外での自習が武器となる。新施設を利用し、設問11「この分野の関心と学力が得られた」の平均値を飛躍的に高めていただきたいと、切に願う次第である。